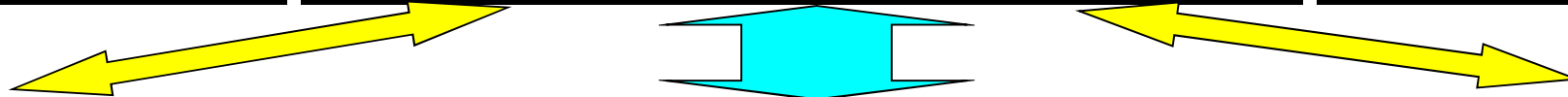


平成29年度 学力向上アクションプラン

A票

尼崎市立潮小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○全国学力調査の結果から見られる課題 (1)各教科の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の問題で、自分の考えと相手の考えの共通点や相違点をとらえる力が低い。 ・算数の活用力・応用力に課題が見られる。昨年同様図形問題に弱い傾向がある。 <p>(2)質問調査の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情の向上が見られたが、全国的にみるとまだまだ低い。 ・計画的に勉強していると答えた児童は少ないが、読書や家庭での予習・復習がよくできている。 	<p>○校内研究会を年4回、ブロック研究会を年3回、その他すべての教員による一人一授業を行い、国語科の研究を深める。</p> <p>○全体研究会、ブロック研究会とともに講師を招聘し、指導助言を仰ぐ。</p> <p>○授業力アップのための校内研修会を行う。</p> <p>○アクティブラーニング推進や課題解決学習を取り入れた先進校への視察を行う。</p>	<p>○自主学習のてびきを活用し、自主学習を含む、家庭学習の推進をはかる。</p> <p>○放課後学習を実施し、低学力の児童の学力底上げを図る。</p> <p>○生活リズムのチェックを実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>○6月と1月に生活リズムチェックの集計をし、宿題・自主学習の定着率を上げる。</p>	<p>○朝学習の読書を徹底させる。</p> <p>○読書力向上員の活用により、図書室の利用をさらに活性化させる。</p> <p>○スタディープランの作成により、学習習慣の定着を図る。</p> <p>○学校だより等で、学力調査の結果の公表を行う。</p>	<p>○学習に自主的に取り組める子どもを育成する。 (自主学習・宿題の提出率90%以上)</p> <p>○課題解決学習(課題を立て、情報を集め、整理し、課題解決を図る)に取り組ませる。</p> <p>○基礎基本をしっかりと定着させる。</p> <p>○保護者アンケートを実施する。</p>



校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>○中学校区による合同研修会を夏季休業中に実施する。</p> <p>○入学前に体験学習をし、中学校の取り組みを知る。</p>	<p>(1)アクティブ・ラーニング推進支援</p> <p>(2)先進校視察支援</p> <p>(3)授業補助支援</p> <p>(4)放課後等学習支援</p> <p>(5)学力定着支援</p> <p>(6)地域人材活用支援</p> <p>(7)その他</p>	<p>潮スタイル授業を取り入れた授業実践を推進する。</p> <p>課題解決学習を行っている先進校を視察し、その後は報告会等を行い、潮スタイル授業をより豊かなものにする。</p> <p>3・4年生の算数科に、週4回少人数指導の支援員を配置する。</p> <p>毎週木曜日の3時～4時半、低学力の児童の学力底上げを図る。 放課後学習 2h×週1×20週 夏季休業期間1.5h×8回</p> <p>スタディープランの活用や自主学習のてびきを印刷し、各家庭に配布する。</p> <p>図書ボランティアの方に読み聞かせをしてもらう。</p>	<p>○学校だより等で、学力調査の結果の公表を行う。</p> <p>○自主学習のてびきを、家庭での掲示用に配布し、自主学習の周知を図る。</p> <p>○生活リズム運動を児童と共に行ってもらい、生活リズムの改善を図る。</p> <p>○学力テストの結果を配布する。</p>

平成29年度 学力向上に向けた取り組み

尼崎市立 潮小学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題
<p>○全国学力調査の結果から見られる課題</p> <p>(1)各教科の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2、3年の漢字をしっかりと覚えていない。 ・ローマ字をしっかりと覚えていない。 ・自分の考えを数学的に表現する力が弱い。 ・問題を解く時に図や線分図など使えない。 ・図形に関する知識力、活用力が弱い。 <p>(2)質問調査の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情はまだまだ伸ばせる。 ・毎日の睡眠時間に差がある。 ・自主性が乏しい。 ・読書を全くしない児童が多い。 <p>(3)児童の学力分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語A問題は、上位層に固まり中位層に一部の固まりがある。国語Bは、中位層上に集中している。 ・算数A問題は、上位層に固まり、算数Bは、中位を頂点とした山型となっている。

課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)		
授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組
<p>○本校独自の授業スタイル『潮スタイル』を定着させる。</p> <p>(潮スタイルとは)</p> <p>↓</p> <p>アクティブラーニング推進支援としても捉えている</p> <p>○授業力アップのための校内研修会を行うとともにすべての教員による公開の一人一授業を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>○中学年の学習では、学力向上支援員を配置し、同室複数指導で学習の遅れ気味な児童に個別指導をする。(今年度は3、4年に配置)</p>	<p>○自主学習のてびきを活用し、自主学習を含む、家庭学習の推進を図る。</p> <p>(ジシュガクのてびき)</p> <p>○放課後学習を実施し、低学力の児童の学力底上げを図る。</p> <p>毎週木曜日(スタディタイム)</p> <p>○生活リズムのチェックを実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(生活リズムチェック表)</p> <p>○スタディープランの作成により、学習習慣の定着を図る。</p> <p>(スタディプラン)</p>	<p>○朝学習の読書を徹底させる。</p> <p>○読書力向上支援員の活用により、図書室の利用をさらに活性化させる。</p> <p>○個々で計画的な予習、復習に取り組み、主体的な学習習慣を身につけさせる。</p> <p>○学校だより等で、学力調査の結果の公表を行う。</p> <p>(うしおのよい子 特別号)</p>

本年度の具体的な目標
<p>○学習に自主的に取り組める子どもを育成する。</p> <p>(自主学習の提出率90%以上)</p> <p>(7月・12月に調査達成を図る)</p> <p>○課題解決学習(課題を立て、情報を集め、整理し、課題解決を図る)に取り組ませる。</p> <p>(潮スタイルを進化させる)</p> <p>○基礎基本をしっかりと定着させる。</p> <p>(学校独自の学力調査で80%以上の通過率を)</p> <p>○活用力の習熟を図る。(授業改善・発展学習)</p> <p>(算数の少人数指導及び習熟度)</p>



中期(平成27～29年)の目標指標
<p>○全国学力調査で国語、算数ともに全国平均得点率を5ポイント以上上回る。</p> <p>○ " " で国語、算数ともに無解答率を減らす。</p> <p>○アンケートで、自尊感情に関わる項目の数値を前年度よりアップさせる。</p> <p>○家庭学習の復習・予習率を毎年向上させる。</p> <p>○本校独自の学力調査で、各学年とも全国平均得点率を10ポイント上げ</p>

兵庫県・尼崎市教育委員会の支援内容	
支援内容	具体的内容
(1)アクティブ・ラーニング推進支援	潮スタイル授業を取り入れた授業実践を推進する。
(2)算数の少人数指導	5・6年生の算数科において少人数指導を実施する。
(3)先進校視察支援	課題解決学習を行っている先進校を視察し、その後は報告会等を行い、潮スタイル授業をより豊かなものにする。
(4)授業補助支援	3・4年生の算数科を中心に、学力向上支援員を配置する。
(5)放課後等学習支援	毎週木曜日の3時～4時半、低学力の児童の学力底上げを図る。
(6)学力定着支援	放課後学習 2h×週1×20週 夏季休業期間1.5h×8回 スタディープランの活用や自主学習のてびきを印刷し、各家庭に配布する。
(7)地域人材活用支援	図書ボランティアの方に読み聞かせをしてもらう。
(8)教科担任	高学年において、学年内で教科担当を決めて指導する。(理科と社会)
(9)その他	自尊感情を高めるため、キャリア教育の推進を図る。

家庭・地域との連携
<p>○学校だより等で、学力調査の結果の公表を行う。</p> <p>○自主学習のてびきを、家庭での掲示用に配布し、自主学習の周知を図る。</p> <p>○生活リズム運動を児童と共に行ってもらい、生活リズムの改善を図る。</p> <p>○学力テストの結果を配布する。</p> <p>(5年 学習到達度調査)</p> <p>(6年 全国学力・学習状況調査)</p> <p>○学校独自の学力テストを実施し、各学年の課題を家庭と共有する。</p> <p>(学力調査)</p> <p>(全ての学年が学年の課題3月に公表)</p> <p>○学校関係者評価委員会で、本年度の学力向上の取り組み(成果と課題)を説明する。</p> <p>学力調査の結果も報告する。</p>